



SSKP

社会福祉法人おおぞら会 広報紙

はばただより

vol.151

「あすはKids」には毎日10人ほどの子どもたちが通っています！

にぎやかな日常…ちょっと覗いてみましょう…！

あすはKids (放課後デイサービス事業)

夏に向けてトマトとブルーベリーの木をみんなで植えました！普段、お家でトマト食べない子も自分で収穫したトマトをおいしそうに食べていてびっくり。自分で育てることで愛着がでたのかもしれません。食べられるものが増えると毎日の食事も楽しいですね。

また、ブルーベリーの事が気になるようで雨なのに傘をさして様子を見に行く子もいます。自分で育てることで食べ物の成長過程に興味を持ってくれたようです。

猛暑に負けず、すくすく育ってね～！！



あすはに来るときに、いつも同じ絵本を持ってくる子がいます。絵本を指差し『しろいくるま』と言っていた子が何回も読むうちに『とよた プリウス』『きゅうきゅうしゃ』『ダンプカー』等車種をしっかりと認識できるようになりました。また別の子は多磨六都科学館に遊びに行ったとき、昆虫の展示を観たあとにそばにあった昆虫絵本を自ら取ってその内容を職員にとってもたくさん教えてくれました。

『継続すること』、『知的な好奇心』は人が成長するうえでとても重要だと教えてもらったひとコマ。今後は、何人かに同じ絵本等の読み聞かせをして、自分で本読むことが難しい子にも読書の楽しさを感じてもらい、職員とのコミュニケーションを楽しんでほしいと思います！（支援員 渡邊智博）

感謝と覚悟

社会福祉法人おおぞら会理事長 西原雄次郎

過日、学生時代のボランティア仲間 10 数人と、二泊三日の旅行をしました。当たり前ですが、皆々、爺さん婆さんの集団になっていて、第三者から見ると、きっと「老人クラブの慰安旅行」に見えたことと思います。亡くなった仲間のことや、要介護状態になっている仲間のこと、そしてたまたま生き延びている自分たちのこと…、話は尽きず、50 数年前のことが「ついこのあいだ」のここのようによみがえってきました。「その後の人生」は様々だったはずですが、多感な時代を共に過ごし、チャレンジし、上手くできたり失敗したり、皆で共有した一つ一つの出来事が、自分たちを育ててくれたとあらためて思わせられました。当時、障がいのある子どもたちの療育キャンプや、グループ活動や、在宅訪問活動などなどに参加させていただいたことが、今の自分の財産になっていることを再確認できました。

さて、おおぞら会は、昨年度、黒字の決算で終えることが出来ました。これは、一つは利用者の皆様が、各自の健康に留意されて、できるだけ休まずに通所して下さったおかげであり、そして職員の皆様が、利用者の皆様の満足度を上げるべく創意と工夫を重ねて下さったおかげであり、さらに利用者のご家族の皆様から多くのご寄付をいただいたことや、応援下さる皆様から物心両面での支えがあったおかげであり、これらの全てが積み重なって達成できたものと思っています。皆々様にただただ感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

社会福祉法人の役員の任期は、理事・監事が2年、評議員が4年と決められています。今年度はこの両者の改選の年となりました。過日の評議員選任解任委員会で、評議員の皆様は全員再任されました。また、その後の評議員会において、理事・監事が選任されました。永く理事を続けて下さっていた古賀誠一様が高齢を理由に辞任され、中野昭精事務長が新たに理事に選任されました。その他の理事・監事の皆様は再任されました。

古賀様には、長期にわたりお力添えを賜り、本当にありがとうございました。また、中野事務長には新たな重責を担っていただくことになりました。

その後の理事会で、次の2年間も私が理事長職を引き受けることが決まりました。ただ、法人設立時から理事長職を続け私自身も高齢になったこともあり、2年経過後の引き継ぎを念頭に検討していくことで、了承をいただきました。

この様な経過で、これからの2年、私は、「おおぞら会の大切にしてきたことを再確認しつつ、新しい時代に即した社会福祉法人の安定経営・運営を目指して、皆で知恵を出し合って努力を続ける」という覚悟で、皆々様に助けられつつ、頑張りたいと思います。

おおぞら会に関わる皆々様、応援して下さいる皆々様、いつも本当にありがとうございます。何とぞこれからも変わらぬお力添えを賜りますよう、心からお願い申し上げます。



野ざきの家 【小規模多機能型居宅介護】

今年2025年は「昭和100年」にあたる節目の年です。昭和が終わってからすでに30年以上が経ちましたが、今もなお、その風景や暮らし、出来事は多くの人々の記憶の中で色褪せることなく生き続けています。最近では「昭和レトロ」という言葉をよく耳にするようになり、昔ながらの純喫茶、昭和歌謡、花柄のキッチン用品―。昭和の風景や文化が今では「新鮮」「かわいい」と若い世代の間で新たな魅力として親しまれています。

昭和という時代は、戦後の混乱から復興を遂げ、高度経済成長とともに人々の暮らしが大きく変化していった時代でした。白黒テレビからカラーテレビへ、洗濯板から洗濯機へ。町の駄菓子屋、紙芝居、貸本屋―今では姿を消したものの中に、昭和を体験された方々の沢山の思い出が詰まっています。野ざきの家でも昭和の歌謡曲が流れると、自然と口ずさむ方が多く、利用者の方々の目がいきいきと輝き「あの頃…」と思い出のお話が始まり、まるで時代を旅するような時間が流れます。

例えば認知症で昨日の出来事がわからなくなってしまう方でも、昔のお話はとても鮮明で記憶がはっきりしていることが往々にしてあります。昨日のことがわからなくなるというのはとても不安で、ともするとそのことばかり思い出そうとして混乱してしまいます。そのような大きな不安の中においては、「昔の記憶」を覚えているということは自分への安心感であり、そして単純にとっても楽しく楽しいことなのだと思います。昔話や好きだった歌…アプローチによって「記憶を呼び起こす」ことも大切な支援です。「あそこに銭湯があってね、子どもを連れていくと喜んでね…」とご家族も忘れているようなことも覚えておられ、そのことをご家族にお伝えすると「たしかにそうでした!」とビックリされることがあります。

野ざきの家では、そうした「昭和の記憶」を大切にしながら、皆さまの人生の物語に寄りそうケアを心がけています。時には、昔ながらの遊びや音楽を取り入れたレクリエーションを通じて、心がほっと和むようなひとときをお届けしています。

人間にとって、思い出に浸ることは決して後ろ向きなことではありません。むしろ、人生を振り返り、自分を見つめ直す大切な時間です。

また、皆さまの体験談は、聴く側にとっても、現代の豊かな日本はその壮絶な苦勞があつてのものだと痛感する、貴重な時間でもあります。「昭和レトロ」な風景や文化が刷新されてゆく令和の時代にこそ、昭和という物語をこれからも皆さまとともに語り継いでいけたらと思います。



夏のお食事会…涼しげなメニューで乾杯!

(支援員 櫻井 俊輔)

工房 時

【就労継続 B 型】

工房時では、自家製面のうどん屋「おもむく食堂」

焼き菓子などの製造販売をしています！

…詳しくは HP をご覧ください…

猛暑前倒しの今夏ですが、工房時では所員の皆さん元気に作業に取り組んでいます。「おもむく食堂」の売上はこの 3 カ月、昨年度実績を上回っています(冷たいうどんが夏にはよく出ます！)。仕事は大変になりますが、おかげさまで所員の皆さんの夏ボーナスも支給できてほっとしています。毎年夏・冬には「今回はボーナスいくら出るのかな？」といった会話があります。高い金額は出せていないのですが、日頃の頑張りが報われるボーナスという仕組みが定着していることがよくわかります。前回のおたよりでは、仕事することで得られる達成感や充実感が重要だというお話を書きました。これにボーナスが加わってモチベーションがさらにあがります。

工賃の使い方は人それぞれです。好きなお菓子を買ったり、ご家族との外食に出かけたり、移動支援サービスの利用や、貯金して自転車を購入した方もいます。

私たち職員は、工賃向上を目指して作業内容や売上目標を設定していますが、工賃を支給した後の話として「もらった工賃どうする？」に注目することも大事だとあらためて思いました。



2 年目の Y さん…自分で買った自転車で
工房時にきています！

昨今の障害福祉政策には「意思決定支援」を重視する流れがあります。簡単に言えば、自分のことは自分で決めるというお話です。お金の使い方を例に挙げると、周りからみたら無駄遣いだろうというお買い物でも、自分で買うと決めた物ならば無理にストップをかけない。といったことかと思えます。しかしこれだけでは意思決定を支援したとは言えません。支援者は、それがどういう結果となるのか？その先はどう続くのか？を想像していくことを求められます。仮に無駄遣いがあったとして、ご本人にとってそれが良くも悪くも一つの体験となること、次のお買い物の際にはその体験を踏まえて何か気持ちの変化が起きること、その変化がさらなる別の体験を生むこと、そうして積み重ねた体験の蓄積によって様々な選択肢ができあがり、その中からご本人が自分で選べるようになる…という流れを作ることが意思決定支援だと考えます。最初からストップをかけてしまうと、体験を積み重ねることができません。

長い人生の中では、悪い経験(失敗)も当然出てきます。事故防止の観点でいえば職員が先回りして防ぐことも大事なのですが、許容される範囲での失敗はあるものとして、大事なのは都度振り返り「じゃあ次はどうしていこうか？」という姿勢や気持ちで次につなげることだと思います。業務は大変になってしまうのですが、積極的にチャレンジする姿勢を事業所全体で持ち続けたいと思います。

(管理者 中野昭精)

アクティビティセンターはばただけ (生活介護)

余暇を過ごすということ…

はばただけは、通常月曜日から金曜日までの平日の日中活動を提供しています。近年は祝日も増え休日が多くなり嬉しくもありますが、一人で過ごすことが難しい利用者には、休日がむしろ困る時間となっている現状もあります。ずっと家にいるのも持て余してしまう、出かけるといってもご家族が高齢の場合や支援度の高い方は、そう頻繁にはお出かけできません。ガイドヘルパーとお出かけをするという過ごし方もありますが、思ったときに気軽に使えるかという、うまくマッチングできないと希望通りにおでかけできないこともあります。小学生の親御さんであればお子さんのGWや夏休みを想像していただくと、こういった休日の過ごし方に困る…という気持ちに少し共感できるのではないのでしょうか。知的障がいのある方の中には、自分の好きなことがどんなことか情報収集の方法がわからないとか得た情報の内容の理解が難しい場合もあります。また興味のあることも試してみる機会や自分の関心を深めたり高めるための行動をひとりではできないなど、いくつかのハードルがあるために、趣味を持つとか「余暇を過ごす」ことが苦手な方も多いのです。

こういったニーズを少しでも解消すべく、はばただけでは年に7回程度の休日開所日を設けています。せっかくの機会、いつもと一味違う時間としてデザートづくりや昼食づくり、ゲストをお呼びして歌や人形劇などを観て、一緒に歌って踊って、みんなで楽しめるいろんな企画を計画しており、和やかな休日を仲間と過ごせる貴重な一日となっています！

4月の開所日には地域の方が散歩する時間に、路面店のように TENT を張り、製品販売を行いました。近隣に新しい住宅も増え、新たな出会いも期待しながら季節の良いタイミングで行っていきたいと思っています。

(管理者 柴田信)



サポートネットあすは

《移動支援・同行援護・行動援護・居宅介護事業》

「移動支援はね、本当に良いお仕事！利用者もご家族もみんな笑顔で喜んでくださるんですから。こんなにやり甲斐があって素晴らしい仕事ほかにないですよ。それに楽しい！皆さんはこの養成研修を最後まで受ければガイドヘルパーとして働くことができるんだからラッキーですよ！」…

サポートネットあすはでは年に 2 回、外出サポートを担うヘルパーの養成研修を開催しています。外部から講師を招き、最初の 2 日は朝から夕方まで障害福祉の歴史や移動支援に関わる知識、障害当事者の疾病や心理などを座学で学び、最後の 1 日は利用者と実際に外へ出て外出時のサポートを学びます。障害当事者がサービスを利用することによって得られる社会参加の意義を伝えることが研修全体の最も大切なテーマとなります。



上述の言葉は長年、講師として講義を受け持ってくださいました昭島市の在宅福祉サービス事業所元理事長 T 講師の言葉です。いつも明るくお元気で、歯に衣着せぬ物言いとユーモアのセンスが特徴の講師でした。現在の障害者総合支援法成立に至るまでの経緯の中では、時に政権に対してぼやき、受講生には選挙に行く大切さを訴える場面もありました。ガイドヘルパーがいかに当事者の人生にとって大切な存在であるかを講義の中で繰り返し説き、前向きなメッセージを送り続けてくださいました。

しかし、昨年 11 月の講義終了間際、唐突に「講師も世代交代をしていかなければいけないから、私は今日で講師卒業！私の講義は今日で最後！」とお話をされ、講義終了となったのでした。

それから半年たち、今年度 1 回目の研修を 6 月に開催したのですが、T 講師のメッセージを引き継いで届けたいと思い、今回初めて受け持った講義の中で、ガイドヘルパーのやり甲斐や楽しさ、嬉しさなどを自分なりに伝えました。

研修が無事終了し、報告がてら連絡してみようかなと思っていた 6 月も半ばを過ぎたころ、ヘルパー派遣をしている事業所の集まりの場で、T 講師が 4 月初旬に逝去されていたことを知りました。ガイドヘルパーに対して勇気の出る言葉をたくさんいただいたお礼を伝えられなかったままのお別れとなりました。

「移動支援はね、本当に良いお仕事！」
T 講師の言葉が今も耳に残っています。
現職のヘルパー、そしてこれからのヘルパーに
伝え続けていきます。
ありがとうございました。

管理者 南川 雄造



近所の新しいカフェにおでかけ！



おおぞら会後援会ニュース



会計報告

梅雨も明けて本格的な猛暑の季節となりました。後援会会員の皆様におかれましてはくれぐれもご自愛下さい。本会も、おおぞら会関係者の皆様にご協力をいただきながら対応してまいります。

今後とも、後援会活動にお力添えを頂きますようよろしくお願いいたします。

社会福祉法人おおぞら会後援会

会長 吉野 壽夫

2024年度 おおぞら会後援会 資金収支報告書

単位：円

収入の部				支出の部			
科目	予算額	決算額	予算対比	科目	予算額	決算額	予算対比
会費	550,000	468,000	85.1%	事務費	40,000	18,845	47.1%
個人	500,000	448,000	89.6%	印刷製本費	5,000	0	0%
団体	50,000	20,000	40.0%	通信運搬費	10,000	0	0%
寄付金	120,000	71,000	59.2%	手数料	20,000	18,845	94.2%
個人	100,000	46,000	46.0%	雑費	5,000	0	0%
団体	20,000	25,000	125.0%	法人へ寄付	500,000	500,000	100.0%
収入計	670,000	539,000	80.4%	支出計	540,000	518,845	96.1%
				当期収支差額	130,000	20,155	15.5%
				前期繰越金	1,712,875	1,712,875	100.0%
				次期繰越金額	1,842,875	1,733,030	94.0%

同 貸借対照表

現金	169,274	次期	1,733,030
預金 J A	0	繰越金	
振替口座0	733,602		
振替口座8	830,154		
計	1,733,030	計	1,733,030

会費・ご寄付 ありがとうございました (令和6年 12 月 1 日～令和7年5月 31 日集約分)

★会費のご納入(敬称略)

個人 10 名の方から会費をご納入いただきました。
ありがとうございました。

★後援会へご寄附(敬称略)

団体 1 社、個人 1 名からご寄附をいただきました。
ありがとうございました。

★法人・各事業所へご寄附(敬称略)

団体 1 社、個人 4 名からご寄附をいただきました。
ありがとうございました。

※加入は任意です。

年会費は法人運営を応援し、法人の活動を地域に広めるため大切にに使わせていただきます。
はばたけだよりの発送に際し、振込用紙を同封させていただいております。
(入会・更新済みの場合も同封しておりますことをご了承ください)

後援会へご入会・ご更新をお願いいたします

年会費 個人…2,000円 団体…10,000円

年会費は、お手数ですが直接お持ちいただくか
下記の口座にお振込みください

郵便口座 00160-0-39163

口座名義: 社会福祉法人おおぞら会後援会

information

支援スタッフ募集！

採用条件、労働条件等の詳細については、おおぞら会本部へ直接お問い合わせいただくか、東京都福祉人材センターのホームページ、または「ジョブメドレー」などのサイトで検索してご確認できます。

人と関わるのが好きな方
タフでガッツのある方
大歓迎です！



短時間や夜間帯のお仕事で週 1 回から始められます

グループホーム(知的障害・身体障害)

宿直夜勤(16:00～翌 10:00) *泊まり手当がつきます
早番(7:00～10:30)、遅番(15:00～20:00)

(業務内容) 身体介助、家事全般、見守り支援等

…それぞれ活躍できる現場があります！

法人のこと、施設のこと…わからなくて迷っている方は、
まずは見学からどうぞ。

おおぞら会本部

0422-30-5571(中野)まで

働き方いろいろ

正規職員・契約職員(常勤)
パート職員・アルバイト



社会福祉法人おおぞら会

- | | | |
|---|----------------|------------------|
| ・ アクトビティセンターはばたけ (生活介護事業) | 三鷹市野崎 3-17-9 | tel 0422-32-3234 |
| ・ 工房時 (就労移行事業・就労継続 B 型) | 三鷹市野崎 2-6-41 | tel 0422-30-5571 |
| ・ 野さきの家 (小規模多機能型居宅介護事業) | 三鷹市野崎 2-6-41 | tel 0422-30-5575 |
| ・ サポートネットあすは (移動支援[居宅介護]事業) | 武蔵野市八幡町 3-3-26 | tel 0422-36-5151 |
| ・ あすは Kids (放課後等デイサービス) | 武蔵野市八幡町 3-3-26 | tel 0422-36-5151 |
| ・ つなぐなかまの家・さくらハイツ・つむぎの家 (共同生活援助) | | tel 0422-26-1320 |

ここ数か月の間に大きな買い物を二つ…携帯電話と車を買替えた。経年劣化が重なってのことだが、携帯電話は 7 年、車は 11 年ぶりの「新品」になんだかんだで心躍った。しかしそれも束の間、もう十分と思っていた機能はどんどん進化した、新しい機能を覚えるのに頭が追いつかずプチパニック。携帯は何をするにもログインでパスワードやら認証やらの数字に追われ、車はビビッと警告音になるたびに焦り、無くなったレバーを探したり(今は全部ボタンやセンサーなのですね)。そんなこんなで、恐らく今も機能の半分も使いこなせていないが、安全・便利を享受しつつ、ようやく新しいものにも慣れてきた。世の中はどこまで変わっていくのだろう…。ドラえもんを描く世界もそう遠くない未来なのかもしれない。でも私はやはりアナログ人間であり、その時代を生きてきたからこそ手間ひまかけることの愛おしさも知っているし、不便を楽しめる自分をこれからも大事にしたいと思う。

(いりくらあきこ)

発行 障害者団体定期刊行物協会 〒157-0072 東京都世田谷区祖師谷 3-1-17-102 (頒価 50 円)

企画・編集 社会福祉法人おおぞら会 編集責任者: 入倉暁子